

トゥマカ・チャラタ・ラーマチャンドラ

トゥルシーダースによるバジャン

繰り返し

幼いラーマチャンドラはかわいらしくよちよち歩き、
足首の飾りは歩くたびにチリンチリンと鳴っている。

第1節

大いなる喜びにくすくすと笑いながら走ろうとし、
そしてつまずいて転ぶ。
ダシャラタ王の妃たちは幼子に駆け寄って抱き上げ、
膝の上で愛情深くあやす。

第2節

彼女たちはサリーの裾で彼に付いたちりを払う。
心とマインドのすべて、存在のすべてを込めて、
彼女たちは彼に愛情を示す。
優しい言葉をささやきながら、
彼女たちは最愛の子を抱き締めそっとなでる。

第3節

彼の唇はサンゴのように赤く、彼の言葉は甘美に満ちている。
優美な鼻には、小さな輪が魅力的に揺れている。

第4節

幼いラーマのハスの花のように優雅な顔を見て、
妃たちは名状し難い至福を感じる。
トゥルシーダースは言う。神の表情の美は無双である。
ラグ王家の至宝であるラーマ神は、
ラーマ神自身とのみ比べることができるのだ。

